



ミライ・ライフ・インスティテュート 木村麗華所長が緊急会見

ミライ・ライフ・インスティテュート
(Mirai Life Institute)

「生命の未来を創造し、希望を永続させる」を
理念に掲げ、人体冷凍保存による未来医療への
接続を目指す、世界最先端の超専門医療研究機関。

木村 麗華(きむら れいか)

(ミライ・ライフ・インスティテュート 所長兼主任研究員)

1935年、東京都生まれ。専門分野は神経科学、生物物理学、クワイオ
イオロニー(低温生物)、意識情報工学。大東大大学院理学部物理学科を
卒業後、米国California Institute of Technology(Caltech)に留学し、生
物物理学の博士号を取得。その後Harvard Medical Schoolに神経科学
の研究に従事し、脳と意識の関係性について画期的な論文を多数発表し
た。帰国後は、意識保存技術の開発に加え、人体そのものを未来の医療技
術で蘇生させるためのクワイオナス人体冷凍保存分野の研究にも注
力。細胞レベルでの損傷を最小限に抑えるガラス化技術や、長期保存環境
の安定化に関する研究を牽引している。



まだまだ活躍が期待された桜木玲奈さん

難病と闘う歌姫・桜木玲奈、眠りへ

「未来で会おう」意識・肉体保存を敢行

午後2時30分、難病と闘うトップアイ
ドル、桜木玲奈さん(20)の意識と肉体
の保存処置が成功裏に完了したと、都内
郊外のミライ・ライフ・インスティテュ
ートで緊急記者会見が開かれた。木村麗
華所長は「桜木さんの勇気と、私たち
の技術が、希望を未来へ繋ぎました」と
発表。意識保存技術と、最先端のクラ
イオニクスを融合させたこの前例なき試
みは、人類の死生観に大きな二石を投げ、
日本中に感動と新たな議論の渦を巻き
起している。

桜木さんは、先月、不治の難病により
余命宣告を受けていたことを公表。同
時に、意識保存装置による意識保存、さ
らに肉体冷凍保存を決定したことを告
白していた。意識保存装置は、すでにそ
の有効性が大阪万博で証明されている。
しかし、肉体そのものの長期的な冷凍保
存からの回復は、まだ未解の領域が多
く、これはまさにフロンティアへの挑戦で
あった。桜木さんがこの挑戦を決断した
背景には、「いつか、またこの声で歌いた
い。未来で皆さんと会って、今の私では
見られない景色を見たい」という、
強い願いがあった。木村所長は、その言
葉を胸に、今回のプロジェクトに臨んだこ
とを強調した。

木村所長の説明によると、保存処置
はミライ・ライフ・インスティテュートの
厳重なセキュリティに守られた特別施設
にて早期から始まった。木村所長率いる
専門チームが、最終メディカルチェックと
心理カウンセリングを行い、桜木さんの
精神状態が安定していることを確認。
家族との最後の対面の時間も設けられ
た。

次に、意識保存装置が設置された精
神量子解析室へと移送され、特殊なヘル
メット型デバイスを装着し、意識情報抽
出が行われた。このデバイスは、脳の電
気信号だけでなく、量子レベルでの微細

な情報までを感知し、デジタルデータへ
と変換する役割を担う。桜木さんの記
憶、感情、思考のパターン、そして歌声の
周波数に至るまで、あらゆる意識の構成
要素が、超高速で分析され、テラバイト
級の高安定性記憶媒体へと転送された。
意識情報の抽出が完了すると、桜木
さんの身体は、肉体冷凍保存のための生
体機能停止室へ。ここでは、まず、全身
麻酔を施し、生命活動を安定的に制御。
その後、血液を特殊な凍結保護液へと置
換するガラス化プロセスが開始された。
この保護液は、細胞内の水分が凍結して
膨張し、細胞膜を破壊することを防ぐ
ために開発された、ミライ・ライフ・イン
スティテュートの最重要技術の一つだ。

そして、午後2時、桜木さんの体温が
目標の極低温に達し、ガラス化が完了。
桜木さんの肉体は、最終段階となる超
低温保存カプセルへと慎重に収容された。
このカプセルは、液体窒素で満たされた
巨大なデューワー瓶(魔法瓶のような構造)
の中に設置され、カプセル内部の温度を
摂氏マイナス196度に保つという。この
瞬間、桜木さんの生命活動は極限まで
停止され、未来の医療技術による蘇生
を待つ時間旅行が正式に始まった。

木村所長は続けた。「彼女の意識は、
完全にデータとして抽出され、高安定性
記憶媒体に保存されました。その間、
脳波、神経活動パターンに異常は見られ
ず、意識情報が正確に転送されたこと
を確認しております。肉体保存について
も、処置の全過程において、細胞損傷を
示す兆候は確認されていません。」

今後、桜木さんの意識データは、最高
レベルのセキュリティで守られたデータセン
ターで、そして肉体は、耐震・耐災害性
を持つミライ・ライフ・インスティテュ
ート地下の特別施設で、厳重な管理体制
の下、半永久的に保管されるという。

並行日本新聞

1975年(昭和50年)

11月10日(月)

発行所

弁天舎



info@parallel-nippon.jp

号外

並行日本新聞・号外は左記サイトでもご覧いただけます。
www.parallel-nippon.jp

8月27日(水)より開催の弁天舎特別企画・
シモヒロヤス個展『パラレルニッポン』にて
全ての号外新聞を展示予定です。



Benten Record Best Hit collection 1960-2025

YouTubeにて大好評配信中!!

「聴く年表」とはいかなるものか?
様々な楽曲とともに
「PARALLEL NIPPON」の世界観が紐解かれていく。
展覧会をより楽しむために、必聴のコンテンツ!!

こちらの二次元コードから
お聞きください。



Benten Record Best Hit collection1960-2025は
シモヒロヤス個展2025「PARALLEL NIPPON」にて全ての楽曲をフルで視聴できます。